

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	高度資格対策 3
科目基礎情報				
開設学科	建築学科	コース名		開設期 後期
対象年次	4年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位			授業形態 講義
教科書/教材	2級建築施工管理技士学科テキスト(2020年度)、2級建築施工管理技術検定過去6回試験問題			
担当教員情報				
担当教員	赤石 辰夫・大澤 公仁	実務経験の有無・職種	有・工事管理	
学習目的				
この科目では、建設施工者の国家資格である2級建築施工管理技士試験のうち、学科の分野について演習を中心に学習を行い、本年度の試験で合格することを目的とする。そのためには、試験問題を建築構造分野・施工分野・管理分野などで工事技術の項目を、建築計画分野・各種法規分野などで建築知識や法律規定などに分けて講義を行い、小テストを行うことによって理解の到達度を確認して弱点の強化を図る。授業の後半では1級建築士に対応する高度な問題にも対応する。				
到達目標				
2級建築施工管理技士試験と同等レベルの問題について70%以上の正解率を上げられることを目標とし、それと同等の知識の修得を目指す。そのためには、過去10年以上の試験問題について精査し幅広い内容の中から定番となる問題を中心に理解し、余裕のある項目については各自が判断して難問にも挑戦し高得点につながるようにレベルアップを図る。さらに1級建築士の資格対策として、過去問題のプリントを配布しながら解説を行い、卒業後に独学でも勉強できる素地をつくる。				
教育方法等				
授業概要	教科書を用いた講義により通常授業で学んだことから試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた演習と解説を行うことで、2級建築施工管理技士同等の実践的知識の習得を行う。同時に模擬試験を行い、実践力を養う。1級建築士はプリントを配布して解説を行う。			
注意点	これまで一般構造・建築材料・建築生産・計画・環境工学・法規などとして分野ごとに学んだ内容を、建築の総合的な知識として学び直すこと。過去6回分の問題集は主に自宅学習で繰り返し解き、模擬試験で実力を確認すること。また、卒業後に受験するときのために、問題の解き方のテクニックを身に付けること。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	60%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画 (1回～15回)				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	仕上げ工事		防水工事、左官工事、ガラス・建具工事、塗装工事などの理解	
2回	労働基準法		労働基準法、労働安全衛生法などの理解	
3回	施工計画、工程計画		事前調査、書類と届け出、工程表などの理解	
4回	その他の法規		騒音・振動規制法、産業廃棄物、建設リサイクル法などの理解	
5回	品質管理、安全管理		品質計画とQC、材料の保管、作業主任者の業務などの理解	
6回	1級建築士 計画1		近代の日本建築史および西洋建築史の理解	
7回	1級建築士 施工1		請負契約・施工計画などの理解	
8回	1級建築士 計画2		住宅・商業施設・公共建築などの計画の理解	
9回	1級建築士 施工2		品質管理・安全管理・工程管理の理解	
10回	1級建築士 計画3		高齢者や環境に配慮した建築計画の理解	
11回	1級建築士 施工3		仮設工事計画の理解	
12回	1級建築士 環境1		日照・採光・照明などの環境管理に関する理解	
13回	1級建築士 施工4		地盤調査・土工事の理解	
14回	1級建築士 環境2		換気・結露・音響などの環境管理に関する理解	
15回	1級建築士 総合		総合演習と確認テストの実施	